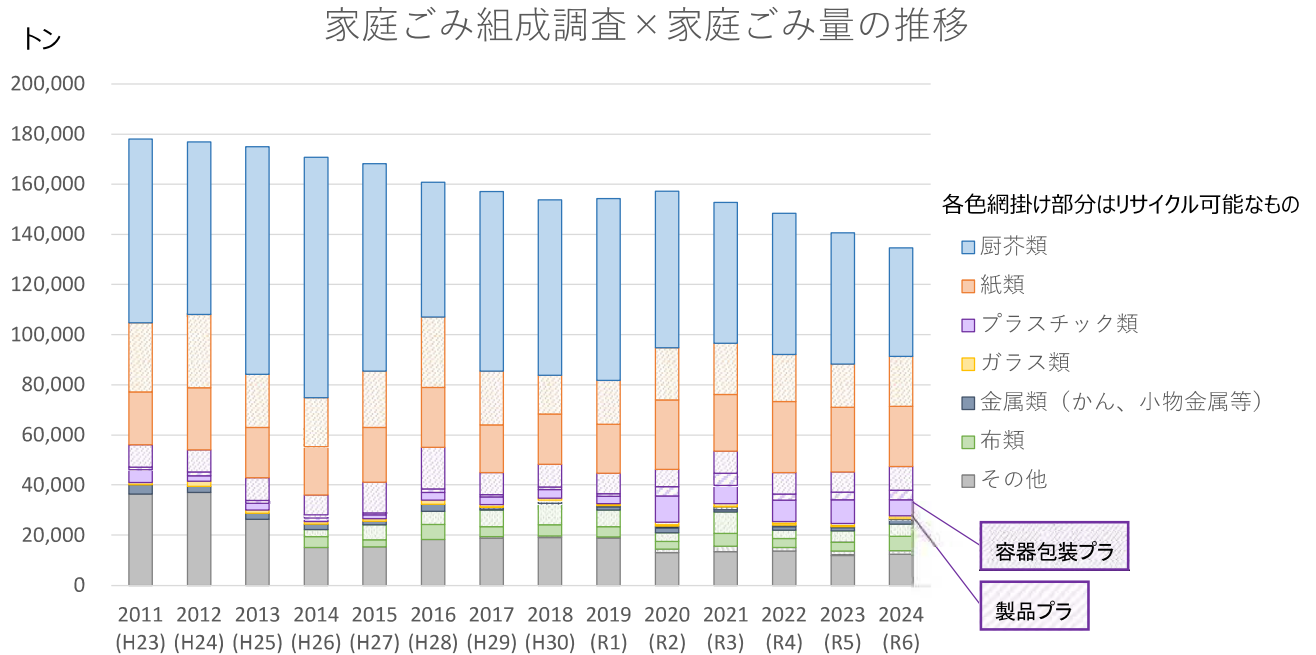


現状



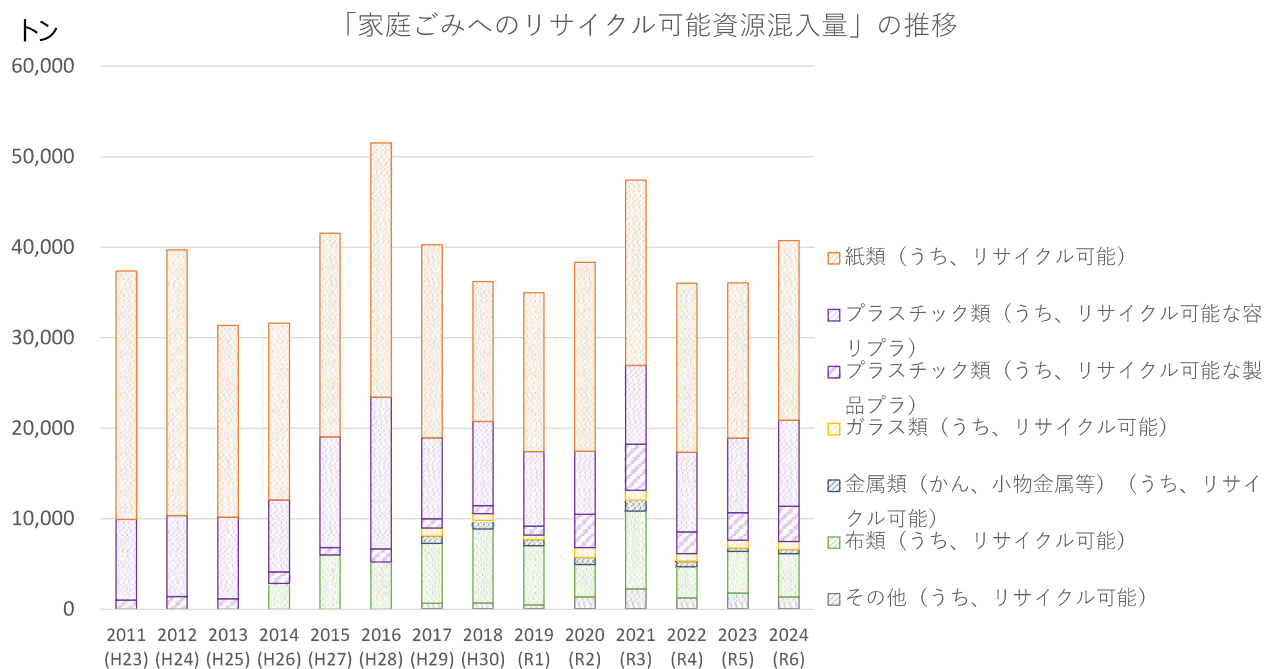
※製品プラの分類はR2年度開始。R1年度以前の製品プラはポリ袋のみ。その他の製品プラはその他に分類。

- ・近年の家庭ごみ量の減少は厨芥類の減少による影響が大きく、資源化物の混入は減少していない。
- ・紙類、プラスチック類、布類は、まだリサイクル可能なものが多く捨てられている。



15

現状

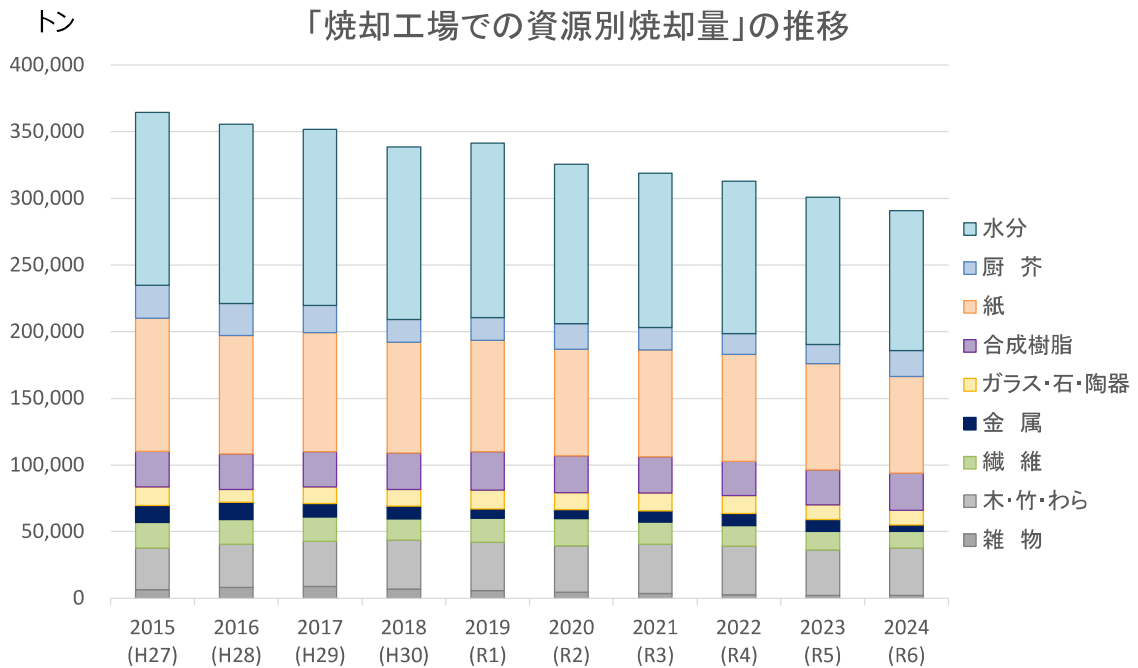


- ・家庭ごみとして捨てられた、まだリサイクル可能な紙類やプラスチック類の混入量が多く、「リサイクル可能資源混入量」の約7～8割を占める。



16

現状



- ・「焼却工場での資源焼却量」には家庭ごみ以外に、事業系ごみ、可燃粗大ごみ、選別施設残渣を含む。
- ・紙類、合成樹脂（プラスチック類）が多く焼却されており、家庭ごみ組成調査と傾向は似ている。



17

【参考】 資源化物回収量の政令市比較

1 人一日あたりの資源化物回収量

g/人・日	人口 (人)	合計	紙類				プラスチック類			
			右以外	パック	容器	小計	容器包装	製品プラ	その他	小計
札幌市	1,969,912	200.6	68.0	0.8	0.0	68.8	37.7	0.0	0.0	37.7
仙台市	1,066,556	169.0	84.3	0.1	0.0	84.4	31.1	3.5	0.0	34.6
さいたま市	1,343,826	183.4	45.5	0.6	23.2	69.3	8.6	0.0	0.0	8.6
千葉市	978,554	324.8	122.1	0.2	0.0	122.3	0.0	0.0	0.0	0.0
横浜市	3,771,766	169.4	87.4	0.0	0.0	87.4	33.8	0.0	0.0	33.8
川崎市	1,529,436	137.7	72.1	0.0	0.0	72.2	23.2	0.0	0.0	23.2
相模原市	718,174	161.0	56.0	0.3	14.5	70.8	25.3	0.0	0.0	25.3
新潟市	768,868	217.6	87.3	0.0	0.0	87.3	24.7	0.0	0.0	24.7
静岡市	679,092	128.7	37.1	0.0	0.0	37.1	0.0	0.0	0.0	0.0
浜松市	789,822	131.4	19.2	0.0	0.0	19.2	19.5	0.0	0.0	19.5
名古屋市	2,296,259	233.3	55.7	0.3	7.6	63.6	27.1	0.0	0.1	27.3
京都市	1,443,486	91.3	35.5	0.1	0.0	35.6	19.9	0.0	0.0	19.9
大阪市	2,770,520	90.8	29.8	0.1	18.8	48.8	15.3	0.0	0.0	15.3
堺市	818,220	146.7	43.9	0.1	0.0	44.0	14.2	0.0	0.0	14.2
神戸市	1,501,595	109.2	60.8	0.1	0.0	60.8	14.7	0.0	0.0	14.7
岡山市	699,112	260.6	172.3	0.1	3.6	176.0	1.2	0.0	0.0	1.2
広島市	1,179,992	118.2	46.7	0.0	0.0	46.7	31.1	0.0	0.0	31.1
北九州市	922,665	290.6	148.5	0.3	0.0	148.8	13.9	3.7	0.0	17.6
福岡市	1,642,571	105.9	44.6	0.0	0.0	44.6	0.0	0.0	0.0	0.0
熊本市	731,691	185.6	64.4	0.2	0.0	64.7	18.0	0.0	0.0	18.0

出典：環境省一般廃棄物処理実態調査（R5）

10

18

計画目標（素案）

【本市の課題】

- ・家庭ごみ指定袋（青い袋）の中には、まだリサイクル可能な「紙」「プラ」が多く含まれている。
- ・焼却したごみの中には、「紙」や「プラ」が多い。

回収量の把握に限界があり、また、資源化物全体の指標である「リサイクル率」よりも、**本市の課題に直結する指標の方が施策の立案や効果の検証に生かせるのでは？**

調査方法	計画目標（素案）	R6現在			
		① ごみ焼却量(t)	② 組成調査結果(%)	③=①×② 品目別焼却量(t)	④市民一人1日 あたり焼却量(g/人・日)
家庭ごみ組成調査	家庭ごみ指定袋に含まれる リサイクル可能な紙類	154,626 (※2)	15	22,783	69
	家庭ごみ指定袋に含まれる リサイクル可能なプラ類 (※1)		9	14,433	44
ごみピット組成調査	市の工場で 焼却した紙類	185,821 (※3)	39	72,656	219
	市の工場で 焼却したプラ類		15	28,059	85

※1 容器包装プラスチック及び製品プラスチック

※2 家庭ごみ指定袋搬入量（住居併設事業所20,000tを含む）

※3 あわせ産廃18,775t、他都市ごみ72,994tを除いた量から、水分比率36.1% = 104,979tを除いたもの

調査方法	計画目標（素案）	R6現在		
		①リサイクル可能な プラ類混入量 (t)	②資源回収量 (t)	③=②/(①+②) 分別協力率 (%)
家庭ごみ組成調査	家庭で排出された リサイクル可能なプラ類 の分別協力率	14,433	7,866(※4)	35.3

※4 プラ指定袋搬入量7,805t、市拠点回収トレイ61t

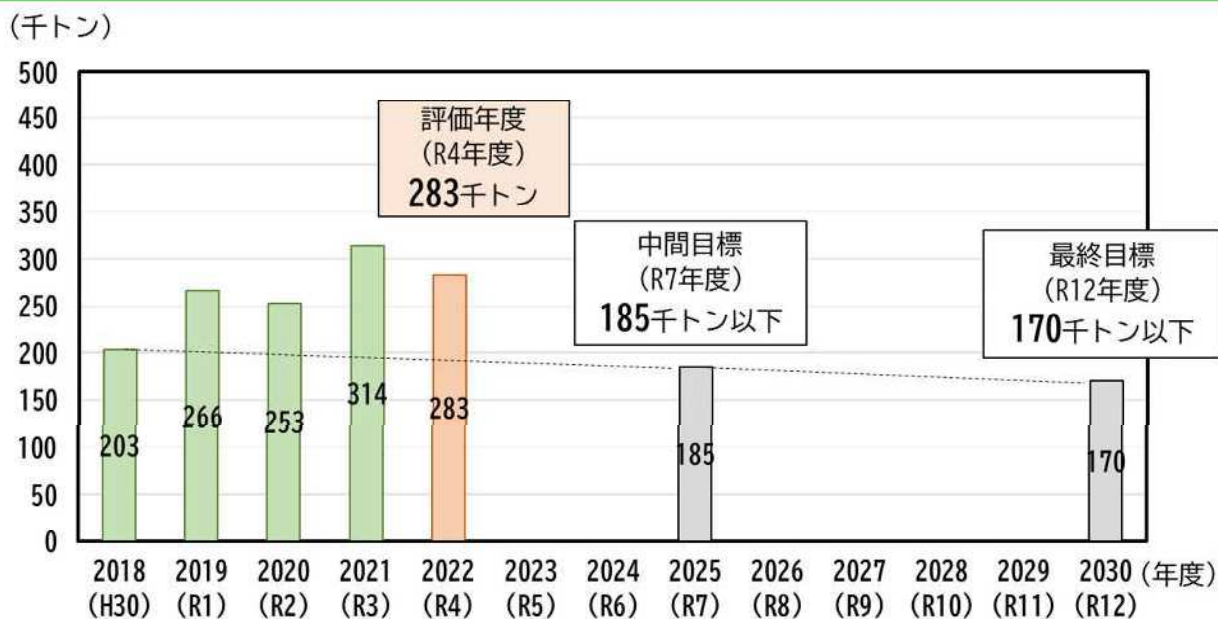
資源回収量を用いるが、紙類と異なり、現時点で民間回収量が少ないと考えられるため、指標として活用可能。

19

目次

- I 前回の主なご意見について (P 4 ~)
- II 計画目標のあり方について (P 6 ~)
 - (1) リサイクル率
 - (2) 産業廃棄物の最終処分量
- III 新たな取り組み（案） (P 26 ~)
 - (1) 家庭系ごみ削減に向けた取り組み
 - (2) 事業系ごみ削減に向けた取り組み
 - (3) 産業廃棄物の削減に向けた取り組み
- IV 次回の審議内容（案） (P 34 ~)





- ・「産業廃棄物の最終処分量」とは、市内で発生した産業廃棄物を最終処分した量
- ・産業廃棄物の排出量は、景気等、社会経済状況の影響を受け変動する
- ・令和3、4年度における最終処分量の増加は、一部の業種で生産量が増加したことが原因と推定される
- ・本計画の中間見直しにおいて、再生利用推進の方策を含め、目標のあり方の再検討が必要



産業廃棄物の最終処分量変動要因の例

- 産業廃棄物の排出量や処分量は、生産量の増加や新規の工場立地等の影響を受ける。

産業廃棄物最終処分量の経年変化



産業廃棄物に関する指標設定の考え方

- 景気等の影響はあるものの、2050年カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーへの移行に向けて、産業廃棄物の減量化・資源化は不可欠なため目標設定は継続する。

<検討の方向性>

○景気変動からの独立性を持った指標の検討

$$\text{市内総生産あたりの廃棄物量} : \frac{\text{産業廃棄物最終処分量（排出量）}}{\text{市内総生産}}$$

☞ より多くの付加価値を少ない廃棄物で生み出せるかを表す指標

○最終処分だけではなく、減量化・資源化に係る総合的な指標の検討

- ・産業廃棄物排出量
- ・産業廃棄物の資源化率
- ・産業廃棄物処理の高度化に取り組む事業者数
- 等

☞ 廃棄物処理の「結果」としての最終処分量ではなく、その削減につながる、より上流のプロセスに注目した指標



23

産業廃棄物に関する指標設定の考え方

- 過去の統計データ等を分析し、適切な指標及び目標値を検討していく。

<検討する指標の例>

指標(案)	メリット	デメリット
最終処分量	・感覚的に市民に分かりやすい	・一部の業種の景気等の影響を受ける ・廃棄物処理プロセスの結果指標
市内総生産あたりの廃棄物量	・景気等の影響を排除できる	・値についてのイメージができない
資源化率	・結果としての最終処分量ではなく、より上流の取組に着目できる	・一部の業種の景気等の影響を受ける ・資源化物量減の影響を受ける (一般廃棄物と同様)
産業廃棄物処理の高度化に取り組む事業者数 (優良認定業者等)	・事業者が実施する廃棄物減量・資源化の取組を促進できる。	・取組による効果が定量的に見えづらい



24